

保障機構  
安全戦略  
水の戦

# 個別課題解決へ議論始動

## 技術普及、分野連携で会合

水の安全保障戦略機構は23日、専門委員会に位置づける技術普及委員会、分野連携委員会の初会合を中央大学後楽園キャンパスで開いた。

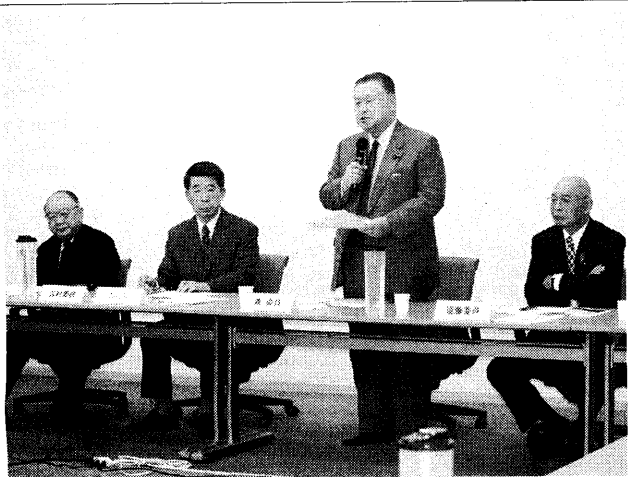
技術普及委員会では、新たな開発技術が実社会で使われないこと、優れた技術が必ずしも国内外で普及しないことに対して、▽新しい技術の実績構築を支援する協力体制の確立▽多目的

案用途を評価する推奨・発注体制の確立▽複数の管理業者で複数の施設・機材を共同利用する体制の構築▽柔軟な契約体制の確立――をめぐり検討する。

分野連携委員会では、「良好な水辺空間の形成」をテーマに、面的に広がった空間を造るために長期間かかるという課題に対して、将来の水辺都市の姿を示し、効果的に施策をすすめてい

くべく▽官民が連携した水辺都市再生のあり方の整備▽水辺都市再生のインセンティブの付与――をめぐり

議論をすすめる。全体的な方針を決める基本戦略委員会と異なり、この2委員会は、設定した課



挨拶に立つ森元首相

題に対する問題解決型の委員会となる。技術普及委員会の委員長に吉村和就クロールウォータージャパン代表、分野連携委員会の委員長に山田正中央大学教授が就くことが承認された。

統一した協力ができる体制を作らないとそれだけ無駄な水が流れる」と、国内が一体となり取り組む「チーム水・日本」としての行動の強化を要望した。技術普及委員会では、官民学それぞれの立場の課題抽出、分野連携委員会では東京・名古屋・大阪の各都市の水辺再生に向けた事例が紹介が行われ、今回の議論から課題を整理し、次回会合につなげていく方針。

平成21年 春の叙勲  
政府は29日付で、春の叙勲の受章者を発表した。本紙関係分では、瑞宝大綬章に元北海道大学学長の丹保憲仁氏、瑞宝重光章にカリフォルニア大学アービス校名誉教授の浅野孝氏、瑞宝中綬章に元建設省都市局長の鹿島尚武氏、瑞宝小綬章に元東京都下水道局長の曾我部博氏が輝いた。

## 旭川で学術シンポ

# 石狩川の未来に向けて

## 水問題解決へ 枠超えた連携を

学術シンポジウム「石狩川の未来に向けて」が18日、旭川市民文化会館で開かれ、丹保憲仁北海道大学・放送大学名誉教授、竹村公太郎日本水フォーラム事務局長による基調講演が行われた。主催は同シンポジウム実行委員会、特定非営利活動法人NPO石狩川サミットほか。後援は札幌開発建設部、石狩川開発建設部、旭川開発建設部、旭川市。同シンポジウムは石狩川流域46市町村により約20年間活動を続けている石狩川サミットの活動を柱に水問題の解決法を模索し、広く発信するのがねらい。



石狩川を柱に水問題を議論したシンポジウム



松田理事長



丹保名誉教授

主催者を代表して冒頭挨拶に立った松田忠男旭川しんぎん産業情報センター理事長は「21世紀に入って水環境は急速に悪化している。旭川市は川のまち、石狩川が縦断しており川の安

全衛生はきわめて重要。諸先生方から、あらゆる視点で知見を賜りたい」とシンポジウムの意義を述べた。はじめに丹保名誉教授が「石狩川の未来に向けて」と題して講演。水をはじめ

エネルギーや食糧について、今後どうなっていくかを解説。日本と世界の消費量を比較し、22世紀へ向けて水の代謝を社会システム化して水の循環使用の必要性を強調。環境と人間社会の関係を良好なものにしなければならぬとまとめた。

続いて竹村事務局長は「水の安全保障へ向けて」と題して水の安全保障戦略機構ができるまでの流れを解説。世界の水問題は日本に直結するものであり、行政・企業の枠を超えた連携の必要性を強調した。シンポジウムでは丹保名誉教授、竹村事務局長に加えて、山田正中央大学理工学部都市環境学科教授、吉村和就国連環境技術顧問・グローバルウォーター・ジャパン代表、山本要NPO石狩川サミット理事・石狩川サミット第9期議長らが登壇。また会場に駆けつけた石狩川流域市町村である当麻町や南富良野町の町長などの意見も交えて、石狩川サミットの活動を柱に、水問題の解決について意見を交換。流域問題の解決には省庁を超えた議論や各自治体の連携が必要であり、連携が実現すれば石狩川が大きな財産となることが訴えられた。

終わりに来賓を代表して登壇した遠藤武彦衆議院議員が「石狩川の治水利水を皆で考えるのはすばらしいこと。水問題を考えると、われわれのライフスタイルを見直さなければならぬ。官学民一体となって問題に取り組みなければならぬ」と結んだ。

# 『水の安全保障シンポin帯広』 北の大地・十勝から 水の重要性を発信

「水の安全保障シンポジウムin帯広 農業王国 十勝の水を考えよう」が17日、帯広市のホテル日航ノースランド帯広で開かれた。主催は同シンポジウム実行委員会。後援は水の安全保障戦略機構。

講師には竹村公太郎日本水フォーラム事務局長、吉村和就国連環境技術顧問・



水の安全保障戦略機構設立までの流れを紹介

グローバルウォータージャパン代表、山田正中央大学理工学部教授、丹保憲仁北海道大学名誉教授・水の安全保障戦略機構執行審議会共同議長を招き、なせ今、水の安全保障が問われているのか、について「農業王国」と呼ばれる帯広の水環境と関連づけて討議が行われた。

主催者を代表して挨拶に立った帯広商工会議所の高橋勝垣会頭は、水問題の解決に貢献することは国際社会の一員としての責務だと述べ、「十勝も昨年は降雨が少なく深刻な状況であり水の安全を認識した。当シンポジウムを契機に水の重要性を十勝から世界に発信したい」と訴えた。



高橋会頭



竹村事務局長

界の水問題は日本に直結するものであり、行政・企業との枠を超えた連携の必要性を強調した。

吉村和就代表は「国内外における水をめぐる動き」と題して、世界の水問題の状況を紹介。海水淡水化や下水の再利用など問題解決へ向けた新技術のトピックを述べながら国を挙げての取り組みが必要と結んだ。

山田教授は「北海道・帯広の水問題への取り組み」と題して、十勝川流域懇談会が提言した河川整備のあり方を紹介。水の安全保障と関連づけて提言を実現できるようにすることが必要と訴えた。

パネルディスカッション「十勝の水を考える」では丹保名誉教授が司会となり、講師と会場参加者との間で、十勝の国際貢献の事例や河川の流域管理、食料の自給率向上のための水税導入や官民連携と民間委託のあり方などを話題に意見交換が行われた。

終わりに来賓代表として登壇した中川昭一衆議院議員は「水は世界をまわっている。国内だけで完結せず、できることを世界に発信していくかねばならない。水問題を考える運動が十勝を発火点としてオール日本として発展していくことを期待する」と述べた。